

## ◆参加報告◆

## 協議会参加記

齊 郷 裕 行

本年4月、医療事業推進本部が発足し、私は、「病院支援部業務支援課調達支援係」という3つも支援が入る組織で、赤十字病院グループの購買に関する業務を行っている。

主要事業である図書室機能強化事業については、病院での業務経験があった私であるが、図書業務についてはほとんど知識がない状態であり、本事業が病院現場でどのように活用されているのか知りたいと考えていた。そんな折、本協議会の皆様の前でお話をする機会をいただき、せっかくの機会であるので、本研修会に特別に参加させていただいた。

医療をめぐる環境は、制度面の改革も早く、医療技術も日進月歩進んでいる。これらの情報をいかに早く入手し、患者様のためにより良い医療を提供できるかが、特に急性期病院の多い赤十字病院グループとしては重要な要素であると感じている。特に現在DPCⅡ群という大学病院分院クラスの最新かつ高度な医療を提供している赤十字病院は、本年5施設増加し19施設となった。これらの医療提供体制の充実、医療機器設備の更新も当然であるが、これを使える医療者の術がなければならず、図書室の役割や多くの電子ジャーナ

ルが利用できるこの環境が、少なからずこの医療提供体制の強化の一助になっているのであろうと考えている。

本研修会は、図書に関する知識に乏しい私にとっては、短時間においてかなり濃い内容のものであった。文献検索がgoogleのように簡単ではなく、使うツールと検索する場所や単語を選ばずに行うとなかなか難しいということ、文献検索でシソーラスが重要となることなどが分かった。さらに赤十字リポジトリをはじめ文献登録の際は、検索を考慮した登録が必要であり必須のルールも多く、これらの習得はかなりの時間と経験を要するものであることが分かった。

また、各施設の図書室担当者自身が、日々病院の為にいかに貢献できるか考え、そして医療従事者とコミュニケーションをとりながら業務を遂行されていることが理解できた。しかしながら、図書室担当者は司書資格の有無に関わらず専門職として配置されている施設が少なく各図書室の立ち位置も異なることにより、これらのギャップに悩まされていることも理解できた。このギャップを埋めるには、双方がそれぞれの立場をきちんと伝える努力を惜しまず続けることが必要であると感じた。

図書室も含めた赤十字施設の各業務において、各々の業務レベルの差を埋めるように、赤十字病院グループ内での協力体制が構築できれば良いと強く感じた。

SAIGO Hiroyuki

日本赤十字社 医療事業推進本部  
病院支援部業務支援課

TEL : 03-6860-8192 FAX : 03-3438-1339  
h-saigo@jrc.or.jp